

さくら ほっと NEWS vol.13

2010年5月

理念

当病院は、地域の中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供するとともに、質の高い医療人を育成します

基本方針

- ・大学病院として、高度先進医療を提供します
- ・高度情報化を進め、安全で開かれた医療を提供します
- ・医学教育を充実し、高い倫理観を持ち信頼される医療人を育成します
- ・名古屋都市圏の中核医療機関として、市民の健康と福祉を増進します

新病院長からのご挨拶

P. 1

特集

▶ 最新の内視鏡検査・治療のご紹介

P. 2・3

手術体験記

お知らせ

▶ 病院機能評価で高評価！

P. 4

名古屋市立大学病院

新病院長からのご挨拶



このたび病院長に就任しました山田和雄です。どうぞよろしくお願いいたします。

最近、医療を取り巻く環境が激変するなか、名古屋市立大学病院では、「地域の中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供するとともに、質の高い医療人を育成する」という理念を高く掲げ、医療を実践しています。とくに医学部、薬学部、看護学部をもつ総合大学の附属病院であることを誇りとして、日々努力しています。

大学病院の施設は今から3年前、外来診療棟が開院し、すべての施設が新しくなり、世界に誇れる大学病院として皆様に役立っています。この3年間は機能的な発展に心がけ、特定機能病院としての充実をはかるとともに、地域がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、日本医療機能評価機構認定病院など大学病院としてなくてはならない機能を取得しています。

各診療科の外来ではアメニティの向上と心温まる対応に心がけ、多くの方々から支持をいただいています。外来化学療法室では日々、多くの患者さんが病気に立ち向かっておられます。最近、外来手術室も稼働し始め、入院不要の小手術に力を発揮しています。時間外に歩いてこられた患者さん（Walk-in

patients）には総合内科医が研修医とともに初期診療に当たっており、全国的に注目されています。また救急搬送の患者さんには救急部の医師が、病院内のすべての診療科医師とともに高度な専門的救急診療を行っています。

病棟では多くの医師、看護師、薬剤師、コメディカル、事務部門が共同で患者さんの治療とケアに心がけ、チーム医療を実践しています。病棟のフロアは消化器、循環器、呼吸器、神経系、周産期など臓器別、機能別の配置となっており、内科医と外科医、産科医と小児科医などが看護師・コメディカルと共同でチーム医療に当たっています。とくに最近ではがんの総合的診療、緩和医療、NST（栄養サポートチーム）、新生児治療（NICU）、重症患者治療（ICU、CCU）、褥瘡治療、総合的リハビリテーションなどに、チーム医療が力を発揮しています。このチーム医療は今後の医療の方向性を示すキーワードと考えています。またチーム医療を推進するため、全国の大学病院に先駆け6年前から電子カルテを導入し、医療の高度化に貢献するとともに、医療安全にも大きく貢献しています。

最後に、私たちは患者さんご本人やご家族も病気に立ち向かう医療チームの一員として参加いただくことを心がけています。これにより信頼できる医療現場が醸成されています。私ども市立大学病院のスタッフ一同は、市民の皆様に安全で最新の医療を提供する大学病院であり続けることを最大の目標にしています。ご不明なことがありましたら、気軽に医療スタッフにお尋ねください。

最新の内視鏡検査・治療のご紹介

「内視鏡」ってどんな器械？

名古屋市立大学病院内視鏡部では、苦痛が少なく安全で質の高い内視鏡検査を受けていただけるように、各分野の高度な専門知識・技術を持った医師、看護師が協力して日々の検査・治療に取り組んでいます。

一般に内視鏡検査は「胃カメラ」と呼ばれてきました。昔はフィルムの入った小型カメラが内視鏡の先端に取り付けられていました。現在では、デジタル情報のハイビジョン映像が高解像モニターに大きく鮮明に映し出され、実際に眼で見るよりも詳しく胃や腸を観察することができます。



胃や腸の様子が高画質・大画面で観察できます



電子内視鏡装置

胃の内視鏡は、太さ約 10 ミリ、長さ約 1 メートルの管状の装置で、その中に①②消化管内部を照らす照明用ライト 2 個、③観察用の対物レンズ 1 個、④胃に空気を送ってふくらませたりレンズを洗ったりするための送気送水用のノズル 1 個、⑤胃液を吸ったり組織を採取したりするための穴(鉗子チャンネル)1 個の合計 5 個の装置が、この細い管の中に組み込まれています。

③観察用の対物レンズ

①照明用ライト

⑤鉗子口

②照明用ライト

④送気送水口



内視鏡の先端部分

内視鏡検査の流れ

検査前日まで

胃の中に食物が残っていたり、大腸の中に便が残っていたりすると、十分な内視鏡観察ができないばかりか危険な場合もあるので、検査の前日、場合によっては2日前から準備が必要です。

上部消化管内視鏡検査の場合は、検査前日の午後9時までに夕食をすませていただき、それ以後はごく少量の水以外は摂取しないで検査を受けていただきます。

大腸(下部消化管)内視鏡検査の場合は、2日前から下剤の内服を開始し、検査前日は食事内容も制限されます。検査前日の夜と当日の朝にはかなり強力な下剤を飲んでいただき、大腸をからっぽにさせていただきます。常用薬の内服については担当医師にお尋ね下さい。

検査当日

胃内視鏡検査では、のどをしびれさせることで内視鏡挿入による苦痛をやわらげるため、キシロカインゼリーというゲル状の麻酔薬をのどに5分ほど含んでいただきます。また、胃や腸の動きを抑え、検査をしやすくするための注射をする場合があります。検査時間は、胃内視鏡検査は約 15 分、大腸内視鏡検査は 30 分ほどかかります。ただし、異常や病変が発見され、組織検査をする場合は検査時間が延長することがあります。

胃の内視鏡検査(上部消化管内視鏡検査)

一般に「胃カメラ」とよばれている検査です。当院では、電子内視鏡によるハイビジョン映像が高解像モニターに映し出され、食道・胃・十二指腸粘膜を詳しく観察することができます。また、特殊な光線を当てて患部を拡大して観察する NBI 拡大内視鏡なども導入されており、癌の診断・治療に貢献しています。

苦痛の少ない 経鼻内視鏡

通常の内視鏡よりも細い内視鏡を鼻から挿入して食道・胃・十二指腸を観察する経鼻内視鏡検査は、画像の質がやや劣るものの、患者さんの苦痛の少ない検査です。検査中に声を出して医師・看護師と会話することもできます。



左：通常の胃内視鏡(太さ 9.5 ミリ)
右：経鼻用細径内視鏡(太さ 5 ミリ)

大腸の内視鏡検査(下部消化管内視鏡検査)



ポリープ発見！



ポリープ切除中



ポリープ切除後

最近、日本人の大腸癌は増加傾向にあります。検査前の下剤内服などの準備がやや煩雑ですが、大腸内視鏡の検査件数は増え続けています。

2泊3日入院で大腸ポリープ切除も行っています。

小腸カプセル内視鏡検査

十二指腸から大腸までの間に、約4～5メートルの長さの小腸があります。胃内視鏡や大腸内視鏡では、届かないので小腸を観察することはできません。最近開発された小腸カプセル内視鏡は小腸の検査を可能にしました。

朝9時ごろにカプセルを飲んでいただき、夕方5時ごろに体に装着した電波画像受信装置を取り外していただきます。その間は、電波障害の無いところであれば、自由に出歩いています。



小腸検査用のカプセル内視鏡

その他、胆のう、胆道、^{すい}膵臓の内視鏡検査、気管支鏡、関節鏡検査など

当院内視鏡部では、消化管以外にも、胆のう・膵臓を検査する特殊な内視鏡検査、肺や気管支の癌・肺結核の診断が可能な気管支内視鏡検査も行っています。

また、肝臓に直接針をさして肝臓癌をラジオ波で焼いて治療する方法や、関節に細い内視鏡を挿入して膝などの関節を手術する関節鏡手術などの専門的で高度な診療も行っています。お気軽に医師・看護師・内視鏡部のスタッフにお尋ね下さい。

内視鏡部 部長 竹山廣光・副部長 片岡洋望

手術体験記

今回私は、職場でもある名古屋市立大学病院で手術を受けました。いつもは患者さんの入院手続きをする立場にある私が、ある日突然ふとした事から病気が見付かり自分の勤め先の病院で入院し手術をするとは夢にも思いませんでした。

日頃から入院受付で多くの患者さんを病棟へご案内していますが、入院して来られる患者さんと同じ立場になって名古屋市立大学病院に入院してみても初めて感じたことも沢山ありました。

私がこの病院で手術を決めたのはやはり主治医の先生の『患者さんの気持ちを一番に考えた誠意ある病気の治療に対しての納得のいく説明』が受けられた事でした。

病気になって、患者さんがまず最初に迷うのは『病院選び』もそのひとつだと思います。

私も別の病院でセカンドオピニオンを受け手術や治療法などに関して意見を聞いてみましたが、説明は横文字ばかりの専門用語を並べられ、納得するどころか不安が増すばかりでした。

患者さんにとって手術が伴う入院となると『安心・納得』は絶対条件です。

また手術以外にも、入院生活というのは食事や入浴に至るまで不安な事も多いものですが、こちらの病院の病棟には患者さん用に、入院生活や手術前・術後の個人計画が絵図形式で説明された一目瞭然の分かりやすいファイルなども準備されており、看護師の方々の忙しい職務の中でも目配り、気配りのある対応も入院して初めて経験できたことでした。

今回こうして命の現場である病棟の入院生活を体験して改めて日頃の健康の有難さを痛感しましたし、この体験が今後の自分の仕事にも活かしていければと思っています。



入院受付 H.I.

お知らせ Inform

病院機能評価で高評価！

日本経済新聞（平成22年1月10日号）にて、“日本医療機能評価機構で高評価だった病院”として当院が紹介されました。

（財）日本医療機能評価機構は、独自に設定した評価基準に基づき、中立的・客観的な立場で、医療機関の活動を実地調査や書面審査を通じて総合的に評価する「病院機能評価」という第三者評価を行っており、全国で約3割の病院が認定を受けています。

当院は平成20年2月18日付でこの認定を受けておりますが、新聞記事では、この病院機能評価の認定病院のうち100点満点換算で75点以上だった病院を紹介しており、全国の名高い病院と共に当院も名を連ねています。

認定された病院のうち、75点以上の高評価病院は全国で70病院（愛知県内では5病院）のみであり、特に大学病院は当院を含め3病院しかないことから、当院の医療機能は全国的に見ても高い評価を受けているといえます。

当院は、今後もより一層の質の向上を目指し、高度かつ安全で開かれた医療の提供に努めてまいります。

名古屋市立大学病院

高評価 70病院
75点以上（認定病院の約3%）

認定病院
全国の病院の約3割

全国の病院

患者さんの権利等

患者さんの権利

良質の医療を受ける権利
情報を知る権利
選択の自由の権利
自己決定の権利
機密保持を得る権利

患者さんは、人格や意思が尊重され、質の高い医療を平等かつ安全に受けることができます。

患者さんは、ご自身の病気や治療について知ることができるとともに、十分にわかりやすい説明をうけることができます。

患者さんは、ご自身の受ける治療について、ご自身で選択し変更することができます。また、他の医師の意見を求めることもできます。

患者さんは、ご自身の受ける治療について、ご自身の意思に基づいて決定することができます。

患者さんのプライバシーは十分に尊重されるとともに、個人情報厳正に保護されます。

患者さんの責務

- 病院の規則や治療に必要な指示・助言を守って療養してください。
- ご自身の健康状態について、できるだけ正確に伝えてください。
- 説明を受けても十分に理解できない場合は、納得できるまでお尋ねください。
- 他の患者さんの権利を尊重し、暴言・暴力等の医療の妨げとなるような行為は行わないでください。
- 医療費の自己負担分は必ずお支払いください。

お願い

- 大学病院として、医療スタッフを育成するため教育実習を行っていますので、ご理解とご協力をお願いします。



名古屋市立大学病院

検索

<http://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/>

ホームページの検索方法の案内『名古屋市立大学病院』で検索

クリック



このQRコードを
ケータイで読み
とると簡単にホーム
ページが見られます。

名古屋市立大学病院さくらぽつとNEWSへのご意見・ご感想をお寄せください。E-mailは hotnews@med.nagoya-cu.ac.jp まで！